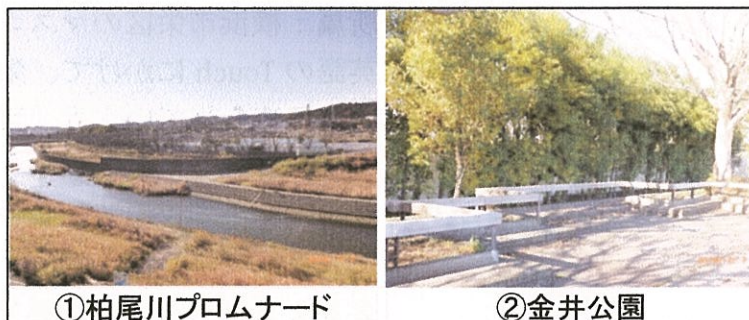


金井町コース

バス停【金井】

コース ①柏尾川プロムナード⇒②金井公園（WC）⇒③荒井市場⇒④八坂神社⇒
⑤庚申塔⇒⑥水神石祠⇒⑦阿弥陀如来立像庚申塔⇒⑧道祖神塔⇒
⑨青面金剛像庚申塔⇒⑩八幡神社⇒⑪玉泉寺⇒⑫爪牙塔⇒⑬髭僧大権現⇒
⑭衣襲尊天⇒⑮御嶽神社

解説 ①柏尾川プロムナード
普通の道路と違い
自動車が通らず、ベンチが設けられている散歩が楽しめる道路。柏尾川プロムナードは川の堤防部分が桜並木通り。



①柏尾川プロムナード

②金井公園

②金井公園 金井町 315 番地。
スポーツ公園として、昭和 53 年から整備が進められた。
野球場、テニスコート、多目的広場、管理施設等がある。

③荒井市場 プライス
クラブ横浜はキャッシュ&キャリー方式の総合食品市場。広大な敷地の中に、生鮮品及び一般食品を扱う直営店と、経営者たちや食材のプロが利用できる専門食材・関連商品を扱うテナントが並んでいる。近くに大衆食堂もある。



③荒井市場

④八坂神社

④八坂神社 王神は素戔鳴尊。
創建などは詳らかではない。

⑤庚申塔 元禄 16 年
(1703) に造立された庚申塔には雲の上に大きく日・月を現し「奉造庚申供養」と刻まれている。庚申塔にしては大きすぎるような日・月に天候の安定と豊作を祈願する農民の思いが感じられる。



⑤庚申塔

⑥水神石祠

⑥水神石祠 「罔象女神」と刻まれた「水神石祠」が安置してある。

かつての「水神石祠」は「祠」のみだったが、風化したので、造りかえられた。

「罔象女神」の文字は玉泉寺の住職が書いたもの。

この「罔象女神」について、日本書紀では、伊弉冉尊^{いざなみのみこと}が火の神、軻遇^{かぐつ}智を生み、そのため火傷をして亡くなったのが、亡くなる寸前に生んだのが水の神「罔象女神」と記され、古事記では灌漑用の水の神と記されている。

以前は柏尾川が氾濫すると「水神石祠」が祀られている下の道辺りまで水浸しになったといわれ、そのため金井の田畑は水をかぶり収穫もまもなくならず「水神石祠」を祀って柏尾川が氾濫しないよう祈ったといわれる。

⑦阿弥陀如来立像庚申塔 金井町内会館の裏に、笠付き角柱碑に「阿弥陀如来

立像」が浮き彫りにされ、右に「庚申供養」と刻まれた庚申塔がある。「庚申供養」の下に、年号が刻まれている。風化して判然



⑦阿弥陀如来立像庚申塔



⑧道祖神塔

としなが寛文3年（1663）ではないかと思われる。3年とすれば栄区で最古といわれる鍛冶ヶ谷八幡神社の「阿弥陀如来立像庚申塔」の寛文8年（1668）より5年も早く造立されたことになる。

それはともかく、金井では最古の「庚申塔」であり、江戸時代初期に阿弥陀如来信仰があったことを示している。鍛冶ヶ谷・飯島・笠間・長沼・金井と寛文期の「阿弥陀如来庚申塔」があり広い地域での阿弥陀信仰をうかがわせる。

三猿は塔の左右と裏面に一猿ずつ刻まれている。

⑧道祖神塔 金井町内会館近くの四辻に、文字で「道祖神」と刻まれ、昭和16年（1941）に造立されている。

「道祖神」はその名の通り、道の神、境の神で、その地域で生活している人達を災いや疫病から守り、道行く人の無事を願って村と村の境や入口、四辻に立てられていて道陸神とも呼ばれている。

⑨青面金剛像庚申塔

鳥居の奥に安置してあり宝暦9年（1759）に造立されている。

浮き彫りにされた青面金剛像は六臂で三叉鉾、宝剣、弓などの他、ショケラを持ち、足は邪鬼を踏まえ、鶏が刻まれているなど、



⑨青面金剛像庚申塔

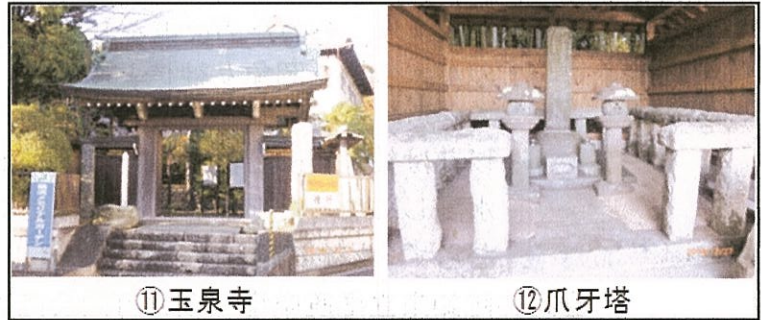


⑩八幡神社

青面金剛像庚申塔のモデルのようだが、刻像もよく朱が所々残されている。

- ⑩八幡神社 主神はホムダワケノミコト 金井村の鎮守、村持ちと記載されているが、創建などは詳らかではない。明治6年(1873)に村社に列格した。

- ⑪玉泉寺 臨済宗。円覚寺の住持、大用国師誠拙ゆかりの寺です。建武2年(1335)創建。誠拙は文化10年、京都、天竜寺の住職として鎌倉を去



ったが、その時に残した自分の歯と爪を祀った爪牙塔や愛用の風炉がある。また、江戸時代のはじめに金井の地を治めていた佐橋氏の墓がある。

- ⑫爪牙塔 誠拙禅師は天龍寺や相国寺からの拝請があり、上京に際して誠拙を慕って引き止める金井の村民に、自分の歯と爪を入れた壺と写経した金剛経・観音経をそえ、更に塔の形を書いたものを村民に与え「このような塔を建ててそれを自分だと思って拜んでくれ」といわれたので、村民は塔を建てて爪牙塔とした。時に文化11年(1814)のことである。村民は塔前には竹の好きな誠拙のため、竹を模した灯籠を一对寄進している。

- ⑬髭僧大権現(髭僧様)

江戸時代末期頃より、各地で信仰され、「病氣平癒」の神様として崇められてきた。又、夜泣きをする子供を連れてお詣



をすると、夜泣きが止まるとされてきた。疝の虫封じの神様とも言う。お医者さんのあまり居ない時代の守り神として信仰されてきたのである。

- ⑭衣襲尊天(きぬがさ明神・おしら神)

蚕(養蚕)の神様。町内は昔、養蚕が盛んに行われていたそうである。そのため、各家には、桑の木が多く植えられていたと言う。

「お蚕様」と言う程、大切な蚕を守る神様として、日常の着る物を守る神様としても、町内の信仰の対象として祀られてきたのである。

- ⑮御嶽神社 木曾の御嶽山になぞらえて造ったといわれ、山嶽信仰塔が多数造立されていて、地元の方は御嶽神社と呼んでいる。

幕末から明治にかけて社会情勢不安の時代、民衆の心をとらえたのが御嶽山や富士山といった山嶽そのものを御神体とする山嶽信仰である。

木曾の御嶽山登拝は、当初百日の間の厳しい精進を経た者にしか許されなかったといわれる。江戸時代中期、その精進を経た尾張の覚明と秩父

の普寛の2人の行者が登山道を整備し広げたので木曾の御嶽山信仰が広まったといわれる。行者たちは信仰のため登山する民衆に講中を造らせ、案内人となって御嶽山へ導いた。これらの講中が造立したのが山嶽信仰塔で、幕末から明治にかけて多数立てられている。

山嶽信仰塔の主神となるのは、御嶽山座王大権現おんたけさんざおうだいごんげんで、これに八海山提頭羅はっかいさんだいづら神王しんおうと三笠山刀利天さんかさやまのりあまを総称して御嶽山三座神と称している。明治になると神仏分離の影響を受けて、座王大権現が「くにとこたちのおおかみ国常立大神」とされ、八海山提頭羅神王が

「くにのさつちのおおかみ国狭槌大神」、三笠山刀利天は「とよくもぬしのおおかみ豊斟主大神」と、日本神話で天地が開けたとき最初に生まれたとされる神にかえられて、信仰塔に刻まれているものもある。その他、御嶽山の信者の霊は山に帰って神になるとされ「普寛霊神」というように刻まれた塔も見受けられる。



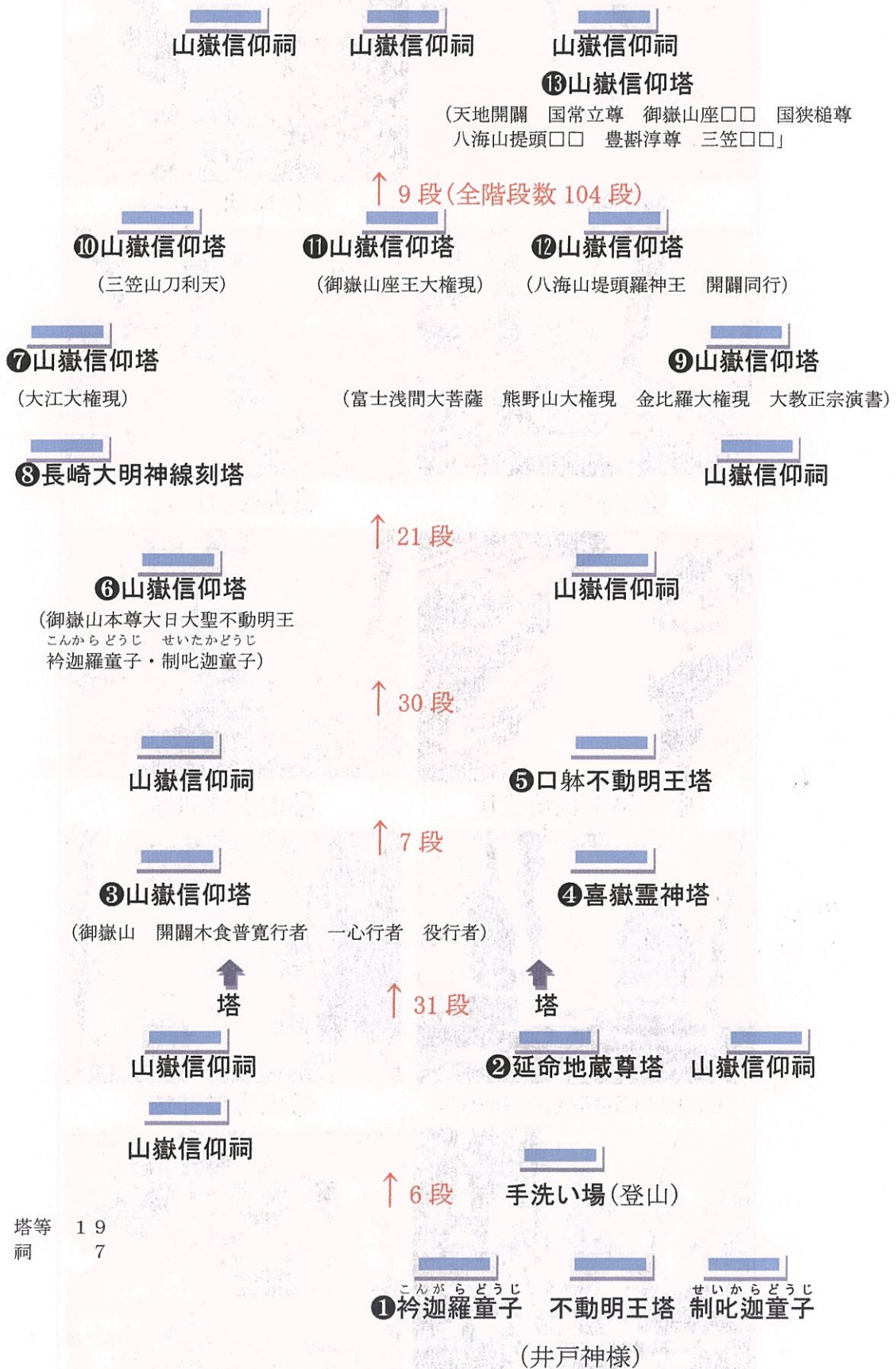
御嶽神社が祀ってある山林

- ①「不動明王塔こんがらどうじと衿迦羅童子・制叱迦童子せいからどうじ」 安政4年(1857) 御嶽山神社入口右手の井戸を前に火炎状の光背を背に浮き彫りにされた不動明王像とその左右に衿迦羅童子・制叱迦童子が安置してある。信者が御嶽山へ上る時は清滝で身を清めるが、その信者を守るのが不動明王といわれる。
- ②文字延命地藏尊塔 年号不詳 達筆な文字で「延命地藏尊」と刻まれている。
- ③山嶽信仰塔 安政2年(1855)「御嶽山 開闢木食普寛行者 一心行者 役行者」と刻まれている。普寛行者は御嶽山の大滝口を開き、一心行者はその後活躍した行者である。
- ④喜嶽霊神塔 年号不詳 喜嶽霊神は地元金井の在住者で入内島喜大郎と申し浜野孫七氏と大先達で木曾の御嶽山の五合目に祀られている。この塔には登山30度と刻まれている。御嶽山の信者の霊は山に帰って神になるといわれ霊神とされる。生前は30回にわたって登山し、行者として先達として民衆を山嶽信仰に導いたのであろう。
- ⑤口躰不動明王塔 文久3年(1863) 文字で口躰不動尊と刻まれている。
- ⑥山嶽信仰塔 安政3年(1856)「御嶽山本尊大日大聖不動明王こんからどうじ 衿迦羅童子・制叱迦童子せいいたかどうじ」と自然石に刻まれている。衿迦羅童子と制叱迦童子は不動明王の脇侍として三尊形式で造立されている。童子は不動明王のお使いともいわれる。

- ⑦山嶽信仰塔 安政4年(1857)「大江大権現」と文字で刻まれている。
- ⑧長崎大明神線刻塔 慶応元年(1865)大きな自然石に長崎大明神の像が線刻されている。
- ⑨山嶽信仰塔 明治44年(1911)「富士浅間大菩薩 熊野山大権現 金比羅大権現 大教正宗演書」と刻まれている。三笠山講中が造立している。
- ⑩山嶽信仰塔 年号不詳「三笠山刀利天」と刻まれている。台座に刻まれた氏名には金井だけでなく周辺の戸塚宿、下郷、富岡、長沼らの村名が記され、信者が多方面にわたっているのがわかる。台座前の線香立に藤沢宿庚申堂 鈴木市兵衛と刻まれているが、今も藤沢には庚申堂が残されている。
- ⑪山嶽信仰塔 維時安政4載(1857)「御嶽山座王大権現」と刻まれている。江戸時代、御嶽山の大滝口を開き社号を御嶽山座王大権現と称したといわれる。台座に和泉村や辻堂村の名が刻まれている。維時とは冠書きで「ときに」と読み、載と書いて「年」を示している。
- ⑫山嶽信仰塔 年号不詳「八海山堤頭羅神王 開關同行」と刻まれている。「国常立大神」「国狭槌大神」「豊斟主大神」の三神は天地が開けた時、最初に生れた神とされている。御嶽神社は中央に石段があり、その左右に山嶽信仰塔が立てられているが、「三笠山刀利天」「御嶽山座王大権現」「八海山堤頭羅神王」の三座神は、奥まった所に大きな「御嶽山座王大権現」を中央に横並びに三座神の石塔が安置してある。
- ⑬山嶽信仰塔 年号不詳「天地開關 国常立尊 御嶽山座□□ 国狭槌尊 八海山提頭□□ 豊斟淳尊 三笠□□」と刻まれている。御嶽神社の一番奥、三座神の後にあり、奥宮の形式で造立したのではないと思われる。栄区やその周辺に多数立てられている山嶽信仰塔は小雀、南谷、笠間、上郷などが刻まれている。

【出所】歴史散策 金井を訪ねる 戸塚くるぶ 戸塚区役所HP

御嶽神社配置略図



塔等 19
祠 7



①不動明王塔



②延命地藏尊塔



③山嶽信仰塔



④喜嶽霊神塔



⑤口躰不動明王塔



⑥山嶽信仰塔



⑦山嶽信仰塔



⑨山嶽信仰塔



⑩山嶽信仰塔



⑬山嶽信仰塔